

地域林業経営確立林業構造改善事業

事業名		地域林業経営確立林業構造改善事業		施設設置場所	
事業主体		大阪府森林組合(旧高槻市森林組合)		大阪府高槻市	
1 事業概要	(1) 全体概要	【事業内容】 地域の森林で間伐され、林内に放置されてきた未利用森林資源である間伐材や、公園・街路で剪定された枝条等を、木質ペレット 堆肥等に加工して、活用するための施設整備事業。			
		【事業実施計画】 H12 活用施設着工 ～ H13 完成、稼働 H13 加工施設着工 ～ H14 完成、稼働			
	(2) 変換対象物	種類	量	(未定)	
		1．間伐材等	600m3		
		2．剪定枝等	100m3		
		3．伐採木等	4,500m3		
		4．			
		5．			
		小計	5,200m3	(未定)	
		種類	該当対象物の集荷エリア		
(3) 変換プロセス	1．間伐材等	高槻市域（～北摂エリア）			
	2．剪定枝等	高槻市域			
	3．伐採木等	北摂エリア			
	4．				
	5．				
	計画規模	第 1期：	第 2期：		
	【基本変換技術】 木質ペレット加工 :川鉄商事(株)による製造ライン				
	【構成・要素技術】 構成機器 :ダブグラインダー、カッターミル、ハンマーミル、ペレットミル等				
(4) 事業の枠組み	【技術の熟成度】 年間700t生産で、自家施設(同事業で整備)のペレットボイラーにて活用。				
	【施設整備事業費とその財源】 全体事業費 :615,250千円 うちH12活用施設 :233,100千円 H13加工施設 :318,675千円 財 源 :国庫補助金47％、大阪府4.8％、高槻市19.0％、補助残 森林組合				
	【総事業費とその費用構成】 施設整備費約550,000千円の他に、施設運営費に年間約14,000千円を要する。				
	【事業収支構造】				
	【事業収支】				

2 事業化および事業展開面での課題や同種事業の促進方策

(1)事業化の経緯とポイント

【経 緯】:

H8 さとやまMORIMORI構想として検討開始

H12 事業計画を策定し、事業化

【ポイント】:未利用森林資源(間伐材、開発伐採木)の有効活用が求められる背景があった。

(2)変換対象物の集荷の仕組み

現状は、山林所有者の持ち込み受入と、森林組合による収集によっているが、今後はボランティアを活用した搬入システムの構築を図る。

(3)事業化至る関係者の意思形成

H8～H12にかけ、林野庁、大阪府、高槻市、森林組合で協議を続け、事業化合意。

(4)主要要素技術とその制度面での対応 / 技術開発課題

木質ペレット加工技術が日本ではあまり普及しておらず、先進国である欧米の技術を取り入れるべく検討し、最終的にはデンマーク、アメリカ製の機械を導入。

(5)変換製品の種類とその販路 (利用先)確保の仕組み

木質ペレットについては、現状森林組合運営施設の檜田温泉(木質ペレットボイラー)で利用。堆肥については、土壌改良材として、地域の農家に配布。

(6)施設整備などの財源の確保方策

農水省「地域林業経営確立林業構造改善事業(資源循環利用推進事業)」の補助対象
設置建設費1/2補助。

(7)事業経営見通しと採算面でのポイント・課題

開発の縮小に伴い、収入が減少するため、材料の収集システムを、地域のボランティアと連携したシステムの構築が重要。

生産量の増大により生産コストが下がるため、森林組合施設での利用以外に木質ペレット利用施設の導入促進を図ることが重要。

(8)現行事業経営面での課題と対応方向

地球温暖化対策に有効な新エネルギーとしての木質ペレット利用促進のため、利用者に対して、化石燃料との価格差を助成する制度が必要と考える。